

第四回弓浜助け合いネットワーク

弓浜から発信！ 認知症への取り組み



地域福祉の実践について理解を深める参加者

少子・高齢化が全国的に深刻化する中、米子市の弓浜地区では、高齢者や障がい者が住み慣れた街で安心して暮らしていけるよう、行政と地元のNPO法人、社会福祉法人、住民が連携して福祉のまちづくりを進めている。昨年十一月三十日、弓浜ホスピタウン(同市大崎)で開かれた「第四回弓浜助け合いネットワーク」では、行政と各団体、地域が一体となって認知症に取り組むことを確認。「認知症になっても安心して住める街づくりをします」などとする「弓浜宣言」を採択した。弓浜ネットワークのまちづくりを紹介する。

「弓浜から発信！ 認知症への取り組み」と題して開催された今回のネットワークには、富益、崎津、夜見、和田、彦名、大篠津の六地区の住民ら約三百五十人が参加。各地区の社会福祉協議会や民生児童委員協議会の代表が、高齢者の触れ合いの場である「いきいきサロン」や認知症予防の取り組み状況などについて報告した。また、米子市弓浜地域包括支援センターの社会福祉士・小坂一さんは、認知症についてセンターとして理解を深めるための啓発活動▽早期発見・早期治療への連携▽認知症になっても安心して住める街づくりの三本柱で取り組んでいることを説明。「さまざまな難問、課題に、みんなで知恵と力を出し合って、弓浜地域の安心・安全・安定のまちづくりを進めて行きたい」と訴えた。

弓浜宣言 2008

- 1. 私たちは認知症に対してやさしい街づくりをします
2. 私たちは認知症の予防と早期治療に取り組む街づくりをします
3. 私たちは認知症になっても安心して住める街づくりをします

活動の広がり期待
県長寿社会課によると、県内の要介護認定者は十月末現在で二万八千三百五十五人。このうち半数が認知症高齢者と推定される。認知症予防対策は待たなしの状況だ。行政と地域のNPOや社会福祉団体、住民が手を携えて支え合う弓浜助け合いネットワークの活動は、県内でもモデル的な取り組みで、県全域への広がりが期待されている。

地域でできることは地域の力で

ここまで高まった地域の知識と意識

社会福祉法人真誠会・NPO法人がいなネット理事長 小田 貢氏



今回6人の皆さんの発表がありました。弓浜助け合いネットワークシンポジウムでの発表は、内容、発表態度ともに年々充実しレベルが向上してきています。また、発表を通してわかることは、認知症に関する知識が豊富で正確になり、それに対する取り組みも非常に具体的なものになってきたことです。参加された住民の皆様方も、各校区、地区での活動がこのような場で発表され、お互いの活動状況

がわかることの重要性を再認識されました。良い意味でのライバル意識も得られ、同時にネットワークの重要性に関する認識が高まってきたことはとてもうれしいことです。今回は初めて鳥取大学医学部保健学科の浦上克哉先生のご出席があり、弓浜地区での認知症へ先進的な取り組みについて高い評価の講評がありました。浦上先生のこの高い評価は弓浜地区の皆様への何よりの励ましになり、今後の更なる活動に対してモチベーションの向上につながると信じております。また今回の「弓浜宣言2008」は、地域の住民の決意を表明した画期的なものと思います。

認知症予防検診の必要性と今後の展望

鳥取大学大学院医学系研究科保健学専攻病態解析学分野 教授 浦上 克哉氏



認知症は65歳以上高齢者の10人に1人にみられる『ありふれた疾患』である。認知症の中で最も頻度の多いアルツハイマー型認知症には塩酸ドネペジル(商品名:アレセプト)が治療薬として使用可能である。さらに、根本治療薬も急速な勢いで開発されている。しかし、根本治療薬ができて早期診断ができなければ効果がない。そこで、来るべき治療可能な時代に向けて、認知症の検診を実施する必要がある。

現在認知症の検診及び予防事業がいろいろな地域で展開される程度が得られている。しかし課題として、認知症への偏見が根強く、参加率がまだ高くないことがあげられる。認知症への正しい理解を広め、早期発見、早期治療、予防が行われることが望まれる。この課題克服に向けて弓浜包括支援センターが積極的に支援し、取り組みがなされている『弓浜助け合いネットワーク』がある。11月30日の発表会で各地域の取り組みが報告されたが、大変素晴らしい活動を展開し、また課題を的確に把握し、その対策を考えている。是非他の地域でも取り入れて頂きたいと期待する。

更なる活動の発展に期待

米子市福祉保健部長寿社会課課長 角 昌之氏



今回のテーマ「弓浜から発信 認知症への取り組み」は重要な取り組みです。現在、米子市内には寝たきりの方を含めて3,630人の認知症の方がおられ、要支援要介護認定者の57.2%(約6割)、65歳以上の10.8%(約1割)に達しております。米子市におきましては高齢者問題の一つとして重く受け止めており、認知症予防教室の開催など地域への普及を積極的に図っており

ます。また、さらにきめ細やかな対応をしていくためには、地域の皆さまや社会福祉協議会をはじめとする地域福祉団体、地域包括支援センターと行政が協働して取り組んでいかなければなりません。弓浜地域では同センターを中心に住民の方も一緒になって地域福祉の諸問題に取り組んでおられます。中でも地域で主体的に取り組んでおられる「いきいきサロン」などは、有効な事業の一つとして注目しております。今後ますます活動が盛んになり、地域福祉がより確固たるものに発展することを期待致します。

住む人すべてが安心できる町へ

米子市弓浜地域包括支援センター 主任介護支援専門員 安田博子氏



日本は今、急速なスピードで超高齢社会に向かっています。10年後、20年後、私たちはどんな社会に生きているのでしょうか。弓浜地域包括支援センターは、高齢になって病気が、障害があっても安心して住める弓浜地域の実現を目標に平成18年から「弓浜助け合いネットワーク」を実施しています。特に今年度は地区社会福祉協議会の方々を中心として実行委員会を立ち上

るにはどうしたらいいでしょうか。各地区の発表では具体的な取り組みが紹介され、参加された人がそれぞれ、自分ができると実感されたと思います。また、認知症を正しく理解し、認知症の人に優しい町にすることをすべての人に安心できる町となると思います。私達は若い世代へも働きかけ更に「助け合いネットワーク」構築を進めていきたいと思っております。

第4回 弓浜助け合いネットワーク意見発表

- 1 富益:「元気がでるいきいきサロン〜富益福祉ネットワーク高齢者支援活動〜」
2 崎津:「地域の力で認知症予防〜崎津6区ゆうあいサロンの取り組み〜」
3 夜見:「地域の交流の場、暖かサロンをめざして」
4 和田:「和田地区の取り組みについて」
5 彦名:「認知症予防〜ほかほかサロンの活動の中で〜」
6 大篠津:「認知症の予防から地域支援を考える」

Advertisement for various local services including: 米子ホスピタウン (医療福祉のまち), 弓浜ホスピタウン (保健福祉のまち), 在宅福祉センター真誠会 (在宅福祉のまち), 小規模多機能センター真誠会 ふる里 (助け合いのまち), 辻田耳鼻咽喉科医院, いえはら歯科.

「弓浜助け合いネットワーク」の更なる発展にご期待いたします。

Advertisement for various local businesses including: あだち石油(有), よみドライ, 山陰アイホー調理機(株), (株)さんれいフーズ, 三和商事(株), (有)花の館よみ, はらガス産業(株), (株)はらぶん米子支店, (有)双美商会, 安酸社会保険労務士事務所, (有)米子プラスチック, フジ・レスピロニクス(株), 和幸電通(株), (有)宇山事務機, 新鋭工業(株), (有)サンユービルド, 東京印刷(株), リコー中国(株), 永瀬石油(株), (株)備中屋本店, (有)福井事務機, (株)福山臨床検査センター, (株)松本油店, (有)阿部白衣, 水野商事(株), 豊田工芸, アスカ保険サービス, (有)OSK, (有)いけまつ環境, 石谷商事(有), 石橋石油店, (有)井上商店, 米子全日空ホテル, 日産プリンス鳥取販売(株)米子支店, 医業経営コンサルタント(経営)有和寛之, ワタキューセイモア(株)中国支店米子営業所 (順不同).